



「ながしまを考える女性会議」

女性の立場で町に提言

7月28日、10月31日の2日間にわたり、「ながしまを考える女性会議」が開かれ、町内各地区の女性代表者が多数参加し、今後町制に参考となる意見が出されました。

この女性会議は、昨年度まで「女性の声を聴く101人の会」として開催。今回から町側は聴くだけではなく、女性の視点で提言していただくという計画されました。

講師は、昨年度からアドバイスをいただいている地域づくりプランナー・男女共同参画政策アドバイザー「たもつゆかり氏」とワークシヨップデザイナー「高崎恵氏」を迎えました。

7月28日の第1回目は、長島町文化ホールコミュニティルームで行われ、各グループに別れ今後の町づくりについ

てさまざまな意見や課題から一つのテーマを抽出。2回目の会議までに各グループで勉強会を開くなど、町に提言できよう準備していました。10月31日の第2回目は、1回目出されたテーマを持ち寄り、町側に対して地域の現状や問題点、今後の取り組み方法などを提言しました。

今回の女性会議で、町に提言があったものは次のとおりです。

【Aグループ】

毎日の生活にゆとりがなく家事や育児、介護に追われ地域活動に参加することができない。育児、介護に関しての制度はあるが、それを知らずに利用できていない人が多く、制度を活用することに周囲の理解が必要。また男性が家事、育児、介護、PTA活動、地域活動などに無関心である。

【提言】

行政主導型ではなく「自分たちでできることはやる」という意識改革が必要。行政主体の女性会議ではなく、今後は女性だけの話し合いの場を

設け、行政につないでいくべき。

【Bグループ】

地域では高齢者とかかわる機会が少ない現状が心配。高齢者がごみの分け方、出し方のルールを理解するのは大変であり、ごみの分別が難しいという声を聞く。

【提言】

高齢者専用文字を大きくし、分かりやすいごみ出しマップとカレンダーを作成。高齢者に対してごみの種類を「燃えるごみ」か「燃えないごみ」かの判断だけでもできるような大きな用紙を用いて説明する。

【Cグループ】

高齢者の介護問題で、高齢期の過ごし方には個人差があり、高齢者が幸せを実感できる長島町になるにはどのような政策が必要か。

【提言】

平成22年度国勢調査によれば、長島町の高齢化率（65歳以上）は32%で、町外の介護施設などに入所している高齢者もたくさんいる。町でリハ